

アメリカンミュージックの変遷

1800年代 夜明け前

1877年、エジソンによりシリンダー方式のレコードが発明され、音を記録することに成功しました。

1888年、現在のディスク方式はエミールベルリナーにより考案され、大量生産に適しているため普及することになりました。当時のアメリカでは1863年の奴隷解放宣言後、アメリカ南部で新しい音楽が現れ、ひとつはブルースでもうひとつはラグタイムです。ブルースはアメリカに送られてきた黒人奴隷の労働歌が元になっていると言われています。後のロックやリズムアンドブルース、ジャズの起源となる重要な音楽です。又、ラグタイムはジャズの原型と言われています。当時のヨーロッパは長い芸術音楽の歴史を下地に後期ロマン派が全盛を振るっていました。代表するのは、ブラームス、ワグナー、ブルックナーといった作曲家達です。音楽の中心はまさにヨーロッパといえました。絵画の分野でも、セザンヌ、ゴーギャン、ロートレックやゴッホといった後期印象派が出てきた時期でもあります。以上が記録音楽の夜明け前と言えるでしょう。

1900年代 探検！探検！

音楽を残すには楽譜におこす必要があり、クラシックなどの芸術音楽はこのように保存されました。例えば民族音楽は主に口伝で継承されていました。録音技術が発達することにより、今まで聴いたことがなかった種類の音楽が一般に出回り、大衆音楽が台頭する下地が出来上がりました。この頃はカウボーイソングの収集が盛んにおこなわれました。

1910年代 生まれるとき、乱れるとき

ラグタイムやブルースはジャズという音楽に変化しつつありました。最初のジャズはディキシランドジャズとよばれ、南部のニューオーリンズに生まれ、大衆音楽の大きなうねりを生むこととなります。ジャズは第一次世界大戦後の大衆文化の発展もあいまってヨーロッパでも人気を得ることになります。

1920年代 喧騒の中からささやきが聞こえる

アメリカではRoaring 20'sと呼ばれ、喧騒の時代といわれています。ラジオ放送が始まり大衆音楽が早く一般に伝わるようになりました。電気録音が発明され、レコードも大量生産されるようになった時代です。ビングクロスビーに代表されるささやくような歌声(クルーナー唱法)の録音は電気録音によりはじめて可能となりました。

ニューヨークにはコットンクラブができ、デュークエリントンを迎え、ルイ・アームストロングも活動の場をシカゴに移し、後にカウントベイシーもカンザスシティで活躍しています。ある意味皮肉なことですが、アフリカの黒人達が奴隷としてアメリカに連れてこられなかったら、このような新しい大衆音楽は生まれてきませんでした。南米ではカリブソやサンバなどの新しい大衆音楽が生まれています。

1930年代 光と闇

20年代に起こった金融大恐慌がアメリカを未曾有の不景気に陥れました。そんな不景気にかかわらず、エンパイアステートビル、ゴールデンゲートブリッジを建設しました。ジュークボックスの4大メーカーが生まれ、大衆音楽を配信するメディアが更に増えることとなり、大衆音楽の普及を加速させました。

1940年代 新たなる旅立ち

アメリカは1941年、日本のパールハーバー奇襲をきっかけに参戦しました。大恐慌からいまだに回復しきっていなかったアメリカはこの軍事需要で立ち直りを見せます。

これまでの大衆的な音楽から求道的なモダンジャズへと変わっていきます。そしてリズムアンドブルースやロックンロールが登場してくるのが1940年代後半です。

録音技術も新旧交代が行われようとしていました。

それまではSP盤が主流でしたが1948年米コロムビアから発表されたLP盤、米ビクターから発表されたEP盤は録音時間も長く、合成樹脂の耐久性も向上しました。

1950年代 第二の波

磁気テープの登場によって編集が出来るようになり、後には多重録音技術が生まれるようになります。リズムアンドブルースは二つの音楽を生むこととなります。ひとつはロックンロール、そしてもうひとつはソウルです。

南部ではゴスペルやリズムアンドブルースに触れながら育ったエルビスプレスリーも1954年にはデビューし、ロックンロールの最大のスターとなります。ジャズの頃から活躍しだしたドラムセットに加え、エレキギター、エレキベースといった現在のロック楽器がそろったのは幸いだったようです。

1960年代 上を向いて歩けばきら星達が

ビートルズはイギリスのリバプールで結成され、1962年イギリスでデビューします。彼らは、エルビスプレスリー、ハディホリーらに影響を受け、コピーバンドをはじめます。アメリカではボブディランがフォークソングを世に知らしめました。

坂本九の「上を向いて歩こう」はイギリスのレコード会社の来日時に耳に止まり、イギリスで発表されヒットしました。Suikiyakiはレコード会社の社長の好物です。グループサウンドの台頭がめざましい時期でもありました。

1970年代 終わり始まり

アメリカではベトナム戦争のため軍事費が拡大し、インフレと不景気を引き起こしました。ジャズは戦後にモダンジャズに変換してから芸術的な側面を深め、商業的にはなり立たなくなっています。しかし、マイルスデイビスによってジャズとロック、ソウルを融合させ、フュージョンというジャンルを見出しました。

ロックとうって変わってソウルにより黒人らしさに目覚め、音楽的充実度をましてゆきます。また従来のソウルの発展だけでなく、新しいスタイルとしてファンクというジャンルが確立されました。

ディスコは1970年後半に大きなブームを引き起こしました。この時代のヒット曲はディスコの影響を大きく受けています。

ジャマイカでは以前からカリブソやメントなどの独自の人衆音楽が生まれていましたが、アメリカからのラジオ放送を受信することができたため、アフタービートを強調したスカやレゲエが生まれました。

日本ではグループサウンドの失速に変わって若者向け音楽の主流となったのが、フォークでした。

1980年代 アナログとデジタルの交差点

公民権運動も落ち着きを見せ、ベトナム戦争も終わったことにより、アメリカ国内の緊張感は緩和されつつありました。冷戦もソ連からの歩み寄りにはじまり、東西ドイツ統一、ソ連邦崩壊にみられるよう世界的にみても次の時代へ移る準備期間と思われれます。

カセットテープとウォークマンは瞬く間に若者に受け入れられ、音楽が戸外でも楽しめるようになりました。又、ビデオテープの登場以来、プロモーションビデオも作られるようになり、ヴィジュアル面で目立つアーティストが人気を博しました。(マイケルジャクソン、プリンス、マドンナ)市場に出回り始めたコンパクトディスクはLPからの34年の世代交代となりました。

ワールドミュージックとして各国の民俗音楽が広く紹介された。

1990年代 無題

Windows95の発売からPC市場の拡大、今日のインターネット市場の拡大へとつながります。音楽の世界では国境を意識しない流通形態であるインターネットによる音楽の配信が行われ始める一方、アメリカだけを見ても売り上げチャートはラップ、カントリー、ラテンポップと日替わりで違うターゲットに向けた音楽がチャートインするようになった。

1998年にはダイヤモンドマルチメディアから発売された携帯MP3プレーヤー(デジタル圧縮された高品質録音の音楽配信)が人気を博しています。

ポストパンクは主に白人層に指示された音楽ですが、それ以外の白人層に食い込んできた音楽がカントリーです。

黒人音楽はラップとソウルの融合は一つのスタイルとして定着しました。おそらく、今後はビートルズやマイケルジャクソン、マドンナといったすべての層に受け入れられるような音楽は出てこないのかもしれませんが。いろいろな可能性がある白紙の状態という意味で1990年はあえて無題としました。